

### Ⅲ 作物別主要病害虫の発生動向、発生原因の解析及び防除概要

#### 1 発生経過、発生原因及び防除の概要

| 農作物名 | 病害虫名         | 発生時期           | 発生量              | 発生経過の概要                                                                                                                            | 発生要因の解析                                                              | 防除の概要                                                       |
|------|--------------|----------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| イネ   | 葉いもち         | 平年：並<br>前年：早い  | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                                                                                                      | いもち病の有効成分が含まれた箱施用剤が普及している。また気温が高く特に助長される気象ではなかったと考えられる。              | 長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。                                      |
|      | 穂いもち         | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 葉いもちが少なかったため、発生しにくかったと考えられる。                                         | 出穂期を中心に防除が実施された。                                            |
|      | 紋枯病          | 平年：並<br>前年：並   | 平年：少<br>前年：やや少   | 発生は平年より少なかった。                                                                                                                      | 紋枯病の有効成分が含まれた箱施用剤の普及により、発生が抑制されたと考えられる。                              | 長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。                                      |
|      | 白葉枯病         | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。                                          | 長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。                                      |
|      | もみ枯細菌病（もみ枯症） | 平年：並<br>前年：－   | 平年：並<br>前年：多     | 発生は平年並であった。                                                                                                                        | 高温により発生しやすい環境となった。                                                   | 長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。                                      |
|      | ごま葉枯病        | 平年：早い<br>前年：早い | 平年：多<br>前年：並     | 発生は平年より多かった。                                                                                                                       | 本病は近年発生が増加傾向にある。夏期の高温や地力低下などが原因と考えられる。                               | 土壌改良剤の施用及び薬剤散布が実施された。                                       |
|      | 黄化萎縮病        | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。                                          | 本病対象の防除は行われなかった。                                            |
|      | ばか苗病         | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 巡回調査では発生はみられなかった。                                                                                                                  | 種子更新及び種子消毒により、抑制されたと考えられる。                                           | 種子消毒が実施されている。                                               |
|      | 稲こうじ病        | 平年：並<br>前年：早い  | 平年：やや少<br>前年：多   | 発生は平年より少なかった。                                                                                                                      | 気温が高く、特に発生しやすい気象ではなかったと考えられる。                                        | 本病を対象とした防除を行っていないほ場が多い。                                     |
|      | 葉しょう褐変病      | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。                                          | 本病対象の防除は行われなかった。                                            |
|      | 縞葉枯病         | 平年：並<br>前年：早い  | 平年：少<br>前年：やや少   | 発生は平年より少なかった。                                                                                                                      | ヒメトビウンカによる媒介が少なかったと考えられる。                                            | 長期残効性の箱施用剤が施用された。また、縞葉枯病多発地域ではヒメトビウンカの防除の実施、抵抗性品種の導入が進められた。 |
|      | 萎縮病          | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。                                          | 長期残効性の箱施用剤が施用された。また、薬剤防除が実施された。                             |
|      | ヒメトビウンカ      | 平年：並<br>前年：早い  | 平年：やや多<br>前年：やや少 | たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや多かった。予察灯による誘殺数も平年より多く推移した。                                                                                    | 近年、発生量・発生面積が減少傾向にあったが、気温が平年より高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。                | 長期残効性箱処理剤が使用された。縞葉枯病多発地域では抵抗性品種が導入されている。                    |
|      | ツマグロヨコバイ     | 平年：遅い<br>前年：遅い | 平年：少<br>前年：少     | たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかったが、予察灯の誘殺数は平年より多く推移した。                                                                                    | 防除を行った水田では発生が抑えられており、ほ場により発生量に差があると考えられる。                            | 長期残効性箱処理剤が使用された。                                            |
|      | ニカメイガ        | 平年：遅い<br>前年：早い | 平年：少<br>前年：やや少   | 巡回調査では平年より少なかった。予察灯およびフェロモントラップによる誘殺数も、平年より少ない傾向であった。                                                                              | 近年、発生は少なく推移していたが、飼料米等、多様な品種が防除圧の低い中で栽培されており、発生の増加が懸念される。             | 長期残効性箱処理剤が使用された。                                            |
|      | セジロウンカ       | 平年：並<br>前年：並   | 平年：やや少<br>前年：やや多 | たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかった。予察灯による誘殺数は、平年より多く推移した。                                                                                  | 効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。                                        | 長期残効性箱処理剤が使用された。                                            |
|      | トビイロウンカ      | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | たたき落とし調査による捕殺はなかった。予察灯の誘殺数は平年より少なかった。                                                                                              | 飛来量が平年より少なかったことに加え、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。                     | 本種に効果の高い長期残効性箱処理剤が使用された。また、本田における防除が実施された。                  |
|      | 斑点米カメムシ      | 平年：並<br>前年：並   | 平年：やや多<br>前年：やや少 | 5～7月の畦畔雑草すくい取り調査による捕獲数は平年よりやや多く、8～9月の水田内のすくい取り調査でも平年よりやや多かった。偽古種はアカスジカスミカメ、アカヒゲがゾミドリカスミカメで、成熟期にはミナミアオカメムシ、イネカメムシ。予察灯では平年より多く誘殺された。 | 気温が高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。また、本田防除が徹底されないほ場や周囲のほ場が収穫された地点では、発生が増加した。 | 本田防除が出穂期以降1～2回実施された。                                        |
|      | イチモンジセセリ     | 平年：並<br>前年：遅い  | 平年：やや多<br>前年：並   | 発生は平年よりやや多かった。                                                                                                                     | 気温が高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。                                          | 発生地域では本田防除が実施された。                                           |
|      | アヲトウ         | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 近年、少発生で経過している。                                                       | 対象とした防除はほとんど行われていない。                                        |
|      | コブノメイガ       | 平年：並<br>前年：並   | 平年：多<br>前年：多     | 発生は平年より多かった。                                                                                                                       | 飛来量が多かったと考えられる。                                                      | 発生地域では本田防除が実施された。                                           |
|      | イネミズゾウムシ     | 平年：並<br>前年：並   | 平年：多<br>前年：多     | 発生は平年より多かった。                                                                                                                       | 冬季の気温がやや高かったことから、越冬量が多かった可能性がある。                                     | 長期残効性箱処理剤が使用された。                                            |
|      | イネドロオイモシ     | 平年：－<br>前年：－   | 平年：－<br>前年：－     | 発生はみられなかった。                                                                                                                        | 例年、発生は常発地域のみである。                                                     | 箱処理剤が使用された。                                                 |
|      | スクミリンゴガイ     | 平年：並<br>前年：並   | 平年：並<br>前年：並     | 県内各地で発生面積が拡大している。巡回調査では概ね平年並の発生であった。                                                                                               | 近年、分布が拡大傾向にあり、温暖化により越冬量が増加している。                                      | 発生地では耕種的防除が実施され、一部では本田防除が実施された。                             |
|      | フタオビコヤガ      | 平年：並<br>前年：並   | 平年：多<br>前年：多     | 発生は平年より多かった。                                                                                                                       | 近年被害が増加傾向にある。                                                        | 多発生の場合、防除が実施されることもある。                                       |

| 農作物名 | 病害虫名         | 発生時期            | 発生量              | 発生経過の概要                                                        | 発生要因の解析                                                | 防除の概要                                                      |
|------|--------------|-----------------|------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| コムギ  | さび病          | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                                  | 生育が旺盛ではなかったことで、発生しにくい環境だった。                            | 栽培暦で2回の薬剤散布を推奨している。                                        |
|      | うどんこ病        | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                                  | 生育が旺盛ではなかったことで、発生しにくい環境だった。                            | 栽培暦で2回の薬剤散布を推奨している。                                        |
|      | 赤かび病         | 平年：並<br>前年：並    | 平年：多<br>前年：少     | 発生は前年より少ないものの、平年よりは多かった。                                       | 4月以降気温が高めに推移したことに加え、断続的な降雨があったことから、特に収穫の遅いほ場で発生が多くなった。 | 概ね薬剤散布が2回実施されている。                                          |
|      | アブラムシ類       | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：少     | 巡回調査では平年より少ない発生であった。                                           | 今年は平年より少ない発生であった。なお、多発した場合であっても、天敵類の活動により最終的な密度は下がる。   | 本虫に対して薬剤散布はあまり実施されていない。                                    |
| かんしょ | ハスモンヨトウ      | 平年：－<br>前年：－    | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                   | 初夏～夏期の発生は例年少ない。                                        | 本虫対象の防除はほとんど実施されなかった。                                      |
|      | シロイチモジヨトウ    | 平年：やや遅い<br>前年：－ | 平年：やや多<br>前年：やや多 | 7月に発生が認められた。                                                   | 近隣に夏ネギ栽培ほ場があり、成虫の飛来があったと推察される。                         | 本虫対象の防除はほとんど実施されなかった。                                      |
|      | ナカジロシタバ      | 平年：並<br>前年：並    | 平年：多<br>前年：多     | 6月の発生量が平年よりも多かった。                                              | 気温が平年よりも高く、発生が助長された。                                   | 本虫を対象に1～2回の防除が実施された。                                       |
|      | エビガラスズメ      | 平年：－<br>前年：－    | 平年：少<br>前年：並     | 調査期間を通じて発生は認められなかった。                                           | 5月の降水量が平年よりも多く、本種の発生が抑制された。                            | 本虫対象の防除は実施されなかった。                                          |
|      | イモキバガ        | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：少     | 7月に最も発生が多かったが、平年に比べ少なかった。                                      | 7月の気温が平年よりもかなり高く、発生が抑制されたと考えられる。                       | 本虫対象の防除は実施されなかった。                                          |
| 茶    | 炭疽病          | 平年：早<br>前年：並    | 平年：やや少<br>前年：やや少 | 春先の罹病残葉は平年並で、6月までは平年よりも多く推移した。7月以降は平年よりも少なく推移した。               | 7月以降の新芽生育期に発病に好適な降雨が少なく、高温が続いたためと考えられる。                | 一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。 |
|      | 輪斑病          | 平年：並<br>前年：並    | 平年：やや少<br>前年：やや少 | 3月の越冬病斑は平年よりも少なかった。6月、9月は平年にくらべやや多い発生だったが、その他の月は平年並～やや少なく推移した。 | 6月、9月の気温が高く推移したため。                                     | 一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。 |
|      | 新梢枯死症        | 平年：並<br>前年：並    | 平年：多<br>前年：並     | 7月の発生量は少なかったが、8月以降は平年よりも発生が多かった。                               | 8月以降気温が高く推移したため、発生が助長されたと考えられる。                        | 一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。 |
|      | もち病          | 平年：並<br>前年：並    | 平年：やや少<br>前年：やや少 | 5、6月の発生は平年並だったが、7月以降の発生は、平年よりも少なかった。                           | 7月以降気温が適温よりも高く推移したため発生が抑えられたと考えられる。                    | 一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。 |
|      | チャハマキ        | 平年：やや早い<br>前年：並 | 平年：並<br>前年：少     | 春に越冬幼虫の発生が平年に比べやや多かったが、その後の発生は平年並だった。                          | 暖冬により、越冬世代の発生が多かった。                                    | フェロモントラップ等を用いた成虫の発生調査に基づき、各世代の幼虫発生期に薬剤による防除が行われた。          |
|      | チャノコカクモンハマキ  | 平年：やや早い<br>前年：並 | 平年：やや少<br>前年：少   | 春に越冬幼虫の発生が平年に比べ多かったが、その後の発生は平年よりも少なかった。                        | 暖冬により、越冬世代の発生が平年並だった。                                  | フェロモントラップ等を用いた成虫の発生調査に基づき、各世代の幼虫発生期に薬剤による防除が行われた。          |
|      | チャノホソガ       | 平年：やや早い<br>前年：並 | 平年：少<br>前年：少     | 発声は平年に比べやや早かったが、発生量は平年よりも少なかった。                                | 近年、本種の発生は少ない。                                          | 二番茶以降の新芽生育初期に他の害虫との同時防除が行われた。                              |
|      | ヨモギエダシャク     | 平年：並<br>前年：やや早い | 平年：多<br>前年：並     | 調査期間を通じて平年よりも発生がやや多かった。                                        | 気温が平年よりも高く推移し、本種の発生が助長された。                             | 春先や、一番茶摘採後に薬剤防除が行われている。秋はハマキガと同時防除された。                     |
|      | カンザワハダニ      | 平年：早い<br>前年：早い  | 平年：多<br>前年：多     | 冬期から発生量が多く、4月及び8月の発生が平年に比べ多かった。                                | 暖冬により発生が助長され、夏期は7月の少雨で発生が助長された。                        | 春先や、一番茶摘採後に薬剤防除が行われている。本年は夏期にも多くの茶園で防除が実施された。              |
|      | クワシロカイガラムシ   | 平年：早い<br>前年：並   | 平年：少<br>前年：少     | 発生量は、調査期間を通して平年よりも少なかった。                                       | 気温が平年よりも高く、高温により発生が抑制されたと推察される。                        | 越冬期の2月に幼若ホルモン系殺虫剤を散布した茶園は防除効果が高い。幼虫期の除通期判定に有効積算温度法が活用された。  |
|      | チャノキイロアザミウマ  | 平年：遅い<br>前年：遅い  | 平年：多<br>前年：多     | 7、8月に発生が多くなり、平年に比べてやや多かった。春期及び秋期の発生が多かった。                      | 夏期に降雨が少なく、8月の発生が助長された。                                 | 二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。                            |
|      | チャノミドリヒメヨコバイ | 平年：やや早い<br>前年：並 | 平年：多<br>前年：やや多   | 4～6月の発生量が平年よりも多く、発生時期も平年よりやや早かった。                              | 温暖化により、春期及び秋期の発生が増加している。                               | 二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。                            |
|      | コミカンアブラムシ    | 平年：並<br>前年：やや遅い | 平年：少<br>前年：少     | 平年に比べ発生は少なかった。                                                 | 断続的な豪雨により、本種の発生が抑制された。                                 | 二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。                            |
|      | ツマグロアオカスミカメ  | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：多     | 平年に比べやや少発生だった。                                                 | 春期の断続的な降雨により、本種の発生が抑制された。                              | 二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。                            |
|      | チャノナガサビダニ    | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：少     | 5月に発生が認められたが、平年よりも少なかった。                                       | 春期の断続的な降雨により、本種の発生が抑制された。                              | 二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。                            |
|      | チャトゲコナジラミ    | 平年：並<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：並     | 平年に比べ少発生だった。                                                   | 近年、発生程度は減少傾向である。                                       | 二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。                            |

| 農作物名        | 病害虫名           | 発生時期               | 発生量               | 発生経過の概要                                         | 発生要因の解析                                            | 防除の概要                                  |
|-------------|----------------|--------------------|-------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 温州みかん       | 黒点病            | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多      | 7月に平年の10倍以上の発生となり、以降も発生が多かった。                   | 雨天と降水量が多かった。                                       | 定期的な薬剤散布が行われた。                         |
|             | かいよう病          | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多      | 葉、果実ともに平年より多かった。                                | 雨天と降水量が多かった。                                       | 防除は3～4回行われた。                           |
|             | そうか病           | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多      | 6月に葉、7月に果実での発生が多かった。                            | 近年、発生が多く、ほ場内での発生源が増加していると考えられる。                    | 4月～5月に防除が行われた。                         |
|             | ミカンハダニ         | 平年：やや早い<br>前年：やや早い | 平年：多<br>前年：多      | 春先及び7～8月に発生が増加した。                               | 暖冬傾向や高温少雨により発生が助長されたと考えられる。                        | 冬季～6月にマシン油、夏秋季に必要なに応じてダニ剤が散布された。       |
|             | チャノキイロアザミウマ    | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：やや少  | 果実への寄生及び被害は9月まで少なかったが、10月にやや増加した。               | 適期防除が実施された。                                        | 防除は6～9月に行われた。                          |
|             | ヤノネカイガラムシ      | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや多<br>前年：やや多  | 葉及び果実への寄生は平年よりやや多かった。                           | 防除園地では発生が抑えられた。                                    | 冬季のマシン油散布と寄生枝の除去が実施された。                |
|             | ナシマルカイガラムシ     | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 近年発生は少ない。                                          | 冬季にマシン油が散布された。                         |
|             | ルビーロウムシ・ツノロウムシ | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多      | ツノロウムシは平年並の発生であった。ルビーロウムシは8～10月に平年より多かった。       | 防除園地では発生が抑えられた。                                    | 夏季に薬剤防除が行われた。                          |
|             | イセリヤカイガラムシ     | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：やや少  | 全般的に発生は平年よりやや少なかった。                             | 防除園地では発生が抑えられた。                                    | 夏季に薬剤防除が行われた。                          |
|             | カメムシ類          | 平年：早い<br>前年：早い     | 平年：多<br>前年：多      | 7月頃までの越冬成虫の発生は少なかったが、8月以降に新成虫が急増し、各地で被害が発生した。   | ヒノキ球果の着果量は平年より多く、年間を通じた高温により本虫が急増し、果樹園に飛来したと考えられる。 | 病害虫防除所からの注意報、技術情報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。  |
| アブラムシ類      | 平年：並<br>前年：並   | 平年：少<br>前年：少       | 全般的に発生は平年より少なかった。 | 他害虫の薬剤防除で本種の発生が抑えられた。                           | 防除は行われていない。                                        |                                        |
| 中晩柑類        | かいよう病          | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多      | 葉、果実ともに平年より多かった。                                | 雨天と降水量が多かった。                                       | 春先・降雨前に銅剤散布が行われた。                      |
| なし          | 黒斑病            | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 例年発生をみない。                                          | 幸水・豊水では、本種を対象とした防除は行われていない。            |
|             | 赤星病            | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 防除を行っている園地では発生は抑えられている。                            | 3月下旬～4月に防除が行われた。                       |
|             | 黒星病            | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多      | 一部園地で5月に果実、7月に葉での発生がみられた。                       | 薬剤防除が行われた。                                         | 3月下旬～7月に防除が行われた。                       |
|             | ナシヒメシンクイ       | 平年：並<br>前年：並       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 薬剤防除が行われた。                                         | 5～8月に防除が行われた。                          |
|             | ナシチビガ          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 例年発生は少ない。                                          | 防除は行われていない。                            |
|             | カメムシ類          | 平年：早い<br>前年：早い     | 平年：多<br>前年：多      | 7月頃までの越冬成虫の発生は少なかったが、8月以降に新成虫が急増し、一部園地で被害が発生した。 | ヒノキ球果の着果量は平年より多く、年間を通じた高温により本虫が急増し、果樹園に飛来したと考えられる。 | 病害虫防除所からの注意報、技術情報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。  |
|             | アブラムシ類         | 平年：並<br>前年：並       | 平年：少<br>前年：少      | 4～7月にかけて平年より少なかった。                              | 防除園地では発生が抑えられた。                                    | 4～5月に薬剤防除が行われた。                        |
|             | ハマキムシ類         | 平年：やや早い<br>前年：並    | 平年：少<br>前年：少      | 発生は少なかった。                                       | 例年発生は少ない。                                          | 4～8月に薬剤防除が行われた。                        |
|             | ハダニ類           | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：やや少  | 発生は少なかった。                                       | 薬剤防除が行われた。                                         | 6～7月に薬剤防除が行われた。                        |
|             | かき             | 落葉病                | 平年：並<br>前年：並      | 平年：少<br>前年：少                                    | 9月に一部園地で発生がみられた。                                   | 発生園地では菌密度の増加が考えられる。                    |
| うどんこ病       |                | 平年：早い<br>前年：早い     | 平年：並<br>前年：やや多    | 5月、7月に発生がみられた。                                  | 例年発生は少ない。                                          | 4月下旬～9月上旬に防除が行われた。                     |
| カメムシ類       |                | 平年：早い<br>前年：早い     | 平年：多<br>前年：多      | 7月頃までの越冬成虫の発生は少なかったが、8月以降に新成虫が急増し、一部園地で被害が発生した。 | ヒノキ球果の着果量は平年より多く、年間を通じた高温により本虫が急増し、果樹園に飛来したと考えられる。 | 病害虫防除所からの注意報、技術情報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。  |
| カキノハタムシガ    |                | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 例年発生は少ない。                                          | 8月に防除が行われた。                            |
| チャノキイロアザミウマ |                | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 適期防除が行われた。                                         | 6～8月に防除が行われた。                          |
| カキクダアザミウマ   |                | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 例年発生は少ない。                                          | 6～8月に防除が行われた。                          |
| フジコナカイガラムシ  |                | 平年：早い<br>前年：やや早い   | 平年：少<br>前年：並      | 平年より少なかった。                                      | 適期防除が実施された。                                        | 6月と8月に防除が行われた。                         |
| ハマキムシ類      |                | 平年：やや早い<br>前年：並    | 平年：やや少<br>前年：やや少  | 平年よりやや少なかった。                                    | 適期防除が実施された。                                        | 4月、7月に防除が行われた。                         |
| ハダニ類        |                | 平年：並<br>前年：並       | 平年：少<br>前年：少      | 平年より少なかった。                                      | 適期防除が実施された。                                        | 5～6月に防除が行われた。                          |
| キウイフルーツ     |                | かいよう病              | 平年：並<br>前年：並      | 平年：少<br>前年：少                                    | 平年より少なかった。                                         | 罹病樹の伐採や薬剤散布などの対策が行われた。                 |
| ばれいしよ       | 疫病             | 平年：遅い<br>前年：やや遅い   | 平年：少<br>前年：並      | 6月上旬に一部ほ場で発生がみられた。                              | 適期防除により発生は概ね抑えられていたが、降雨により一部ほ場で発生した。               | 予防的防除を含め、3月～5月に防除が行われた。                |
|             | ウイルス病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－      | 発生はみられなかった。                                     | 例年発生は少ない。                                          | 媒介虫であるアブラムシの防除が行われた。                   |
|             | ニジュヤホシテントウムシ   | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－      | 発生はみられなかった。                                     | 例年発生は少ない。                                          | 防除は行われていない。                            |
|             | ジャガイモガ         | 平年：並<br>前年：並       | 平年：並<br>前年：並      | 発生はみられなかった。                                     | 防除ほ場では発生が抑えられた。                                    | 薬剤防除、収穫物への寒冷紗の被覆、残さの放置をしないなどの対策を行っている。 |
|             | アブラムシ類         | 平年：並<br>前年：並       | 平年：少<br>前年：少      | 平年より少なかった。                                      | 防除ほ場では発生が抑えられた。                                    | 薬剤防除が実施された。                            |
|             | 食葉性ヤガ類         | 平年：並<br>前年：並       | 平年：少<br>前年：少      | 平年より少なかった。                                      | 例年発生は少ない。                                          | ヨトウガ主体の防除はほとんど行われていない。                 |

| 農作物名      | 病害虫名         | 発生時期               | 発生量              | 発生経過の概要                                                 | 発生要因の解析                                                                       | 防除の概要                                                                                  |
|-----------|--------------|--------------------|------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| ねぎ        | さび病          | 平年：やや早い<br>前年：－    | 平年：やや少<br>前年：多   | 9月、12月に一部圃場で発生が見られたが、9月以外は平年よりも少ない発生だった。                | 近年の発生が少ない影響で、伝染源密度が低かったものと推定される。                                              | 本病対象の防除はほとんど行われていない。                                                                   |
|           | 黒斑病          | 平年：遅い<br>前年：並      | 平年：少<br>前年：少     | 9月以降発生が確認されたが、調査期間を通して平年よりも発生が少なかった。                    | 9月以降発生に好適な降雨が少なく、発生が抑制された。                                                    | 平年並の防除はされている。                                                                          |
|           | べと病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                            | 例年発生が見られない。                                                                   | 本病対象の防除は行われていない。                                                                       |
|           | ハスモンヨトウ      | 平年：遅い<br>前年：やや遅い   | 平年：多<br>前年：やや多   | 9月及び11月に発生が認められ、11月の発生量は平年よりも多かった。                      | 秋期の気温が平年よりも高く、遅い時期まで発生が認められた。                                                 | 防除回数が平年よりも多かった。                                                                        |
|           | シロイチモジヨトウ    | 平年：やや早い<br>前年：やや早い | 平年：多<br>前年：やや多   | 8～11月に発生が認められ、8月の発生が平年よりも多かった。                          | 夏期の高温、少雨により発生が助長された。                                                          | 防除回数が平年よりも多かった。                                                                        |
|           | アブラムシ類       | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 調査期間を通じて発生は認められなかった。                                    | 近年発生はほとんど認められない。                                                              | 育苗期に薬剤による防除が実施された。本場における防除は特に行われなかった。                                                  |
|           | ネギハモグリバエ     | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：多   | 10月に最も発生が多くなったが、発生量は平年よりもやや少なかった。                       | 夏期の高温により9月まで発生が抑制されたが、10月には発生が増加した。                                           | 定植後から秋期まで、定期的に防除が実施されている。                                                              |
|           | ネギアザミウマ      | 平年：早い<br>前年：早い     | 平年：多<br>前年：多     | 8月の発生が平年よりも多かったが、9月以降は平年並～少発生だった。                       | 夏期は高温、少雨により発生が助長されたが、8月下旬の台風によりその後は抑制された。                                     | 定植直後に防除が実施されたが、その後は発生状況に応じて実施されている。                                                    |
| たまねぎ      | ヨトウガ         | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 調査期間を通して発生は確認されなかった。                                    | 近年ほとんど発生が認められない。                                                              | 定植直後に他の害虫と同時に防除が実施された。                                                                 |
|           | さび病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並     | 栽培期間を通じて発生は認められなかった。                                    | 例年発生は少ない。                                                                     | 対象とした防除はあまり行われていない。                                                                    |
|           | ボトリチス菌による葉枯れ | 平年：並<br>前年：－       | 平年：やや遅い<br>前年：多い | 1月、3月に多く発生し調査期間を通して平年よりやや多く発生した。                        | 栽培期間中気温が高く推移し、発生が助長されたと考えられる。                                                 | 対象とした防除はあまり行われていない。                                                                    |
|           | 白色疫病         | 平年：並<br>前年：－       | 平年：やや少<br>前年：多   | 11月に発生が確認されたが、12月以降は発生が確認されなかった。                        | 本病は近年発生が少ないため、伝染源密度が極めて低いものと推察される。                                            | 対象とした防除はあまり行われていない。                                                                    |
|           | 灰色腐敗病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並     | 栽培期間を通じて発生が認められなかった。                                    | 本病は近年発生が少なく伝染源密度が極めて低いものと推察される。                                               | 平年並の防除が実施された。                                                                          |
|           | 腐敗病          | 平年：早い<br>前年：早い     | 平年：多<br>前年：多     | 11月に平年を大幅に上回る発生発生だったが、1月は平年並の発生となり、2月以降の発生は平年より少なく推移した。 | 8月下旬の台風による大雨の影響で育苗圃で広がり、11月に多発生を引き起こしたと推察される。1月以降は少雨により発生が抑制されたと考えられる。        | 平年並の防除が実施された。                                                                          |
|           | べと病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は見られなかった。                                             | 例年発生は少ない。                                                                     | 対象とした防除はあまり行われていない。                                                                    |
|           | シロイチモジヨトウ    | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：並     | 11月に発生が認められ、発生量は平年よりも多かった。                              | 本種は葉身内部に食入するため降雨の影響が少なく、気温が高かったことから発生が助長された。                                  | 生育期前半に防除が行われた。                                                                         |
| 冬春<br>トマト | ネギハモグリバエ     | 平年：遅い<br>前年：遅い     | 平年：少<br>前年：少     | 12月に発生が認められ、発生量は平年よりも少なかった。                             | 8月下旬の台風とその後の断続的な降雨により、発生が抑制された。                                               | 例年、育苗期から生育期前半に防除が行われている。                                                               |
|           | ネギアザミウマ      | 平年：遅い<br>前年：遅い     | 平年：少<br>前年：少     | 栽培期間を通して発生が認められたが、発生量は平年よりも少なかった。                       | 8月下旬の台風とその後の断続的な降雨により、発生が抑制された。                                               | 例年、育苗期から生育期中期に防除が行われている。                                                               |
|           | アブラムシ類       | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 調査期間を通じて発生は認められなかった。                                    | 例年発生は少ない。                                                                     | 育苗期から生育期前半に防除が行われている。                                                                  |
|           | 疫病           | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は認められなかった。                                            | 降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。                                                     | 下葉の除去及び薬剤防除が行われた。                                                                      |
|           | 灰色かび病        | 平年：遅<br>前年：遅       | 平年：やや少<br>前年：少   | 発生は平年よりやや少なかった。                                         | 降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。                                                     | 下葉の除去、発生初期の発病葉のつみ取り及び薬剤防除が行われた。                                                        |
|           | モザイク病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－     | 発生は認められなかった。                                            | アブラムシの発生もなく、近年発生が少ない。                                                         | 特に防除は行われなかった。                                                                          |
|           | 斑点病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－     | 発生は認められなかった。                                            | 近年、発生が少なく伝染源が少ない。                                                             | 特に防除は行われなかった。                                                                          |
|           | 輪紋病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－     | 発生は認められなかった。                                            | 発生が認められず、伝染源が少ない。                                                             | 主に、灰色かび病、葉かび病、すずかび病と同時防除が行われている。                                                       |
|           | 萎ちょう病        | 平年：遅<br>前年：遅       | 平年：少<br>前年：並     | 一部で発生がみられた。                                             | 抵抗性台木を使用していない株で発生があった。ただし、養液栽培の普及などにより全体的な発生は少ない。                             | 上耕栽培では土壌消毒が実施されている。また、抵抗性台木を導入している。                                                    |
|           | 炭疽病          | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－     | 発生は認められなかった。                                            | 静岡県では例年発生しない。                                                                 | 特に防除は行われなかった。                                                                          |
|           | 葉かび病         | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：少   | 発生は平年よりやや少なかった。                                         | 抵抗性品種を栽培しているほ場でも葉かび病の発生がみられており、レースを打破している可能性がある。今年度は降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。 | 抵抗性品種の利用、下葉の除去、発病葉のつみ取り及び薬剤防除が行われた。                                                    |
|           | 黄化葉巻病        | 平年：遅<br>前年：遅       | 平年：少<br>前年：やや少   | 発生は平年より少なかった。                                           | 耐病性品種の普及により被害が軽減された。                                                          | コナジラミに対する薬剤防除と防虫ネットによる侵入阻止、耐病性品種の利用、発病株の抜取りが行われた。                                      |
|           | コナジラミ類       | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや多<br>前年：少   | 平年よりやや多い発生であった。                                         | 生育期間中の高温により常に発生しやすい環境であった。                                                    | 苗時、定植時、定植後において薬剤防除が実施された。また、施設開口部に防虫ネットを張る侵入防止対策、施設内部における黄色粘着版の設置による発生状況の把握・防除対策がとられた。 |
|           | アブラムシ類       | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は認められなかった。                                            | 例年発生は少ない。                                                                     | コナジラミ類に対する薬剤防除により同時防除された。                                                              |
|           | ハダニ類         | 平年：－<br>前年：－       | 平年：やや少<br>前年：少   | 発生は認められなかった。                                            | 例年発生は少ない。                                                                     | 対象とした防除はあまり行われていない。                                                                    |
|           | ハモグリバエ類      | 平年：遅<br>前年：遅       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                           | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。                                                        | 生育初期に数回の薬剤防除が実施された。                                                                    |
|           | ハスモンヨトウ      | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多     | 発生は平年より多かった。                                            | 夏～秋期にかけ多発したことにより、被害が多発した。                                                     | 天窓、側窓に防虫ネットが設置され、進入を抑制した。薬剤防除が実施された。                                                   |
|           | オオタバコガ       | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                            | 薬剤防除により発生が抑えられた。                                                              | 防虫ネットの設置、ハスモンヨトウに対する薬剤防除により同時防除された。                                                    |

| 農作物名       | 病害虫名       | 発生時期               | 発生量              | 発生経過の概要                                                             | 発生要因の解析                                      | 防除の概要                             |
|------------|------------|--------------------|------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------|
| 秋冬<br>ダイコン | 白さび病（ワッカ症） | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                                       | 降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。                    | 常発地では予防散布が行われた。                   |
|            | 黒腐病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | 例年発生は少ない。                                    | 薬剤の予防散布が実施された。                    |
|            | 黒斑細菌病      | 平年：並<br>前年：遅       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                                       | 降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。                    | 薬剤の予防散布が実施された。                    |
|            | モザイク病      | 平年：遅<br>前年：早       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年より少なかった。                                                       | 媒介虫であるアブラムシ類の発生は多かったが、ウイルス保毒率は低かったとみられる。     | アブラムシ類の薬剤防除が実施された。                |
|            | アブラムシ類     | 平年：遅<br>前年：遅       | 平年：多<br>前年：やや多   | 発生は平年より多かった。                                                        | 気温が高く推移したことから、増殖が助長された。                      | 年内に数回の薬剤防除が実施された。                 |
|            | コナガ        | 平年：遅<br>前年：並       | 平年：少<br>前年：やや少   | 発生は平年より少なかった。フェロモントラップによる誘殺数は、浜松市では平年より少なかったが、牧之原市では平年よりやや少なくな推移した。 | 薬剤防除により発生が抑えられた。                             | 年内に数回の薬剤防除が実施された。                 |
|            | ナモグリバエ     | 平年：遅<br>前年：遅       | 平年：少<br>前年：少     | 発生量は平年より少なかった。                                                      | 作の後半になるにつれ、発生は増加する。                          | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。            |
| レタス        | 灰色かび病      | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は認められなかった。                                                        | 近年、発生が少なく、伝染源が少ない。                           | 薬剤防除が行われた。                        |
|            | 軟腐病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－     | 発生は認められなかった。                                                        | 近年、発生が少なく、伝染源が少ない。                           | 薬剤防除が行われた。                        |
|            | 腐敗病        | 平年：並<br>前年：－       | 平年：やや少<br>前年：－   | 発生は平年よりやや少なかった。                                                     | 降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。                    | 薬剤防除が行われた。                        |
|            | 斑点細菌病      | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | 薬剤防除により発生が抑えられた。                             | 常発地を中心に薬剤散布が行われた。                 |
|            | 萎黄病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | 近年発生は見られない。                                  | 特に防除は行われなかった。                     |
|            | 菌核病        | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや多<br>前年：多   | 発生は平年よりやや多かった。                                                      | 乾燥により胞子が飛散しやすい環境であった。                        | 薬剤防除、罹病株の撤去が行われた。                 |
|            | べと病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | 前年も少発生で、伝染源が少なかった。また気温が高く発生しにくい環境であった。       | 薬剤防除が行われた。トンネル被覆後は換気が行われた。        |
|            | アブラムシ類     | 平年：並<br>前年：遅       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は平年よりやや多かった。                                                      | 薬剤散布により発生が抑制された。                             | 被覆前の生育前期に薬剤防除が実施された。              |
|            | ハスモンヨトウ    | 平年：並<br>前年：早       | 平年：多<br>前年：多     | 発生は平年より多かった。                                                        | 夏～秋期にかけ多発したことにより、被害が多発した。                    | 育苗期や被覆前の生育前期に薬剤防除が実施された。          |
|            | モザイク病      | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 例年発生は認められていない。                                                      | 媒介虫のアブラムシ類の発生は多かったものの、保毒虫は少なかったと考えられる。       | アブラムシに対して被覆前の生育前期に薬剤防除が実施された。     |
|            | すそ枯病       | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | 近年、発生が少なく、伝染源が少ない。                           | 薬剤防除、罹病株の撤去が行われた。                 |
|            | ビクベイン病     | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は認められなかった。                                                        | 気温が高く推移したため、発生しにくい環境であった。                    | 薬剤防除、罹病株の撤去が行われた。                 |
|            |            |                    |                  |                                                                     |                                              |                                   |
| キャベツ       | 黒腐病        | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：多   | 12月に発生が認められたが、生育期間を通して、発生は少なかった。                                    | 台風の襲来もなく、発病が促進されなかった。                        | 平年並の薬剤防除は行われた。                    |
|            | 軟腐病        | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：並     | 生育期間を通して、発生は認められなかった。                                               | 台風の襲来もなく、発病が促進されなかった。                        | 平年並の薬剤防除は行われた。                    |
|            | 菌核病        | 平年：並<br>前年：－       | 平年：やや少<br>前年：多   | 11月は平年並の発生だったが、12月は平年よりも少ない発生だった。                                   | 薬剤防除により発生が抑えられた。                             | 平年並の薬剤防除は行われた。                    |
|            | コナガ        | 平年：早い<br>前年：－      | 平年：多<br>前年：多     | 10月に発生が認められ、平年よりも発生量が多かった。                                          | 秋期の気温が平年よりも高く、発生が助長された。                      | 例年、育苗期から生育期中期に防除が行われている。          |
|            | アブラムシ類     | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 調査期間を通じて発生は認められなかった。                                                | チョウ目害虫を対象とした防除薬剤により発生が抑制された。                 | 定植直後に防除が実施され、その後はチョウ目害虫と同時防除された。  |
|            | ハスモンヨトウ    | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：やや多   | 10、11月に発生が認められ、発生量は平年よりも多かった。                                       | 秋期の気温が平年よりも高く、発生が助長された。                      | 育苗期から、定期的に薬剤による防除が実施された。          |
|            | シロイチモジヨトウ  | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：並     | 10月に発生が認められ、平年よりも多い発生だった。                                           | 秋期の気温が平年よりも高く、発生が助長された。                      | 育苗期から、定期的に薬剤による防除が実施された。          |
|            | モンシロチョウ    | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | 例年発生は認められない。                                 | 例年、育苗期から生育中期に同時防除されている。           |
|            | ヨトウガ       | 平年：－<br>前年：－       | 平年：並<br>前年：並     | 発生は認められなかった。                                                        | チョウ目害虫を対象とした防除が実施され、例年発生は認められない。             | 例年、育苗期から生育中期に同時防除されている。           |
|            | タマナギンウワバ   | 平年：やや早い<br>前年：やや早い | 平年：多<br>前年：多     | 10、11月に発生が認められ、発生量は平年よりも多かった。                                       | 秋期の気温が平年よりも高く、発生が助長された。                      | 例年、育苗期から生育中期に防除が行われている。           |
|            | オオタバコガ     | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多     | 10、12月に発生が認められ、発生量は平年よりも多かった。                                       | 秋期の気温が平年よりも高く、発生が助長された。                      | 例年、育苗期から生育中期に防除が行われている。           |
| いちご        | 灰色かび病      | 平年：並<br>前年：並       | 平年：並<br>前年：並     | 一部ほ場でわずかに発生したのみで、ほぼ発生が見られなかった。                                      | 近年、発生が少なく伝染源も少ない。適切に防除され、発生が抑制された。           | 定期的な薬剤散布が行われた。                    |
|            | うどんこ病      | 平年：遅い<br>前年：並      | 平年：並<br>前年：やや多   | 12月から発生がみられ、一部ほ場で多発した。                                              | 発生ほ場は罹病部位の除去などの対策が十分に行なわれず、ほ場内での伝染源が多くなっている。 | 薬剤散布と罹病した葉・果実の除去が行われた。            |
|            | 炭疽病        | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：やや多   | 11月～1月にかけて発生が平年よりも多かった。                                             | 育苗ほの発生は平年並だったため、潜在感染株が本ほに持ち込まれた。             | 発病株の抜き取りと定期的な薬剤散布が行われた。           |
|            | モザイク病      | 平年：－<br>前年：－       | 平年：－<br>前年：－     | 発生は見られなかった。                                                         | 例年発生は少ない。                                    | 防除は行われていない。                       |
|            | 角斑細菌病      | 平年：－<br>前年：－       | 平年：少<br>前年：少     | 発生は見られなかった。                                                         | 雨除け育苗により防除され、罹病苗の使用がなくなった。                   | 防除は行われていない。                       |
|            | アブラムシ類     | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：やや少 | 平年よりやや少なかった。                                                        | 発生初期に防除できなかったことで、ほ場により多発を招いた。                | 薬剤散布または天敵放飼が行われた。                 |
|            | ハダニ類       | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多     | 11月以降、発生が平年より多かった。                                                  | 天敵放飼の時期が遅れたり、発生初期に薬剤散布できなかった。                | 天敵を利用したほ場では、天敵に対して影響の小さい薬剤が散布された。 |
|            | ハスモンヨトウ    | 平年：並<br>前年：並       | 平年：多<br>前年：多     | 平年より多かった。                                                           | 本種の発生量が多く、施設内への飛び込みも多かった。                    | 定期的な薬剤散布が行われた。                    |
|            | アザミウマ類     | 平年：並<br>前年：並       | 平年：やや少<br>前年：やや少 | 発生は平年よりやや少なかったが、11月は平年より発生がやや多かった。                                  | 発生初期の薬剤散布が徹底されなかった。                          | 薬剤散布または天敵放飼が行われた。                 |

| 農作物名 | 病害虫名     | 発生時期         | 発生量            | 発生経過の概要                                        | 発生要因の解析                       | 防除の概要                      |
|------|----------|--------------|----------------|------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| キク   | 白さび病     | 平年：－<br>前年：－ | 平年：多<br>前年：多   | 発生は平年より多かった。                                   | 多湿により発生が助長された可能性がある。          | 定期的な薬剤防除が行われた。             |
|      | 黒斑・褐斑病   | 平年：遅<br>前年：－ | 平年：やや多<br>前年：多 | 発生は平年よりやや多かった。                                 | 多湿により発生が助長された可能性がある。          | 定期的な薬剤防除が行われた。             |
|      | ウイルス病    | 平年：－<br>前年：－ | 平年：－<br>前年：－   | 発生は認められなかった。                                   | 媒介虫であるアザミウマ類の保毒虫率が低かったと考えられる。 | アザミウマ類の薬剤防除が行われた。          |
|      | 半身萎凋病    | 平年：－<br>前年：－ | 平年：－<br>前年：－   | 発生は認められなかった。                                   | 伝染源が少なかったためと考えられる。            | 常発ほ場では土壌消毒が実施された。          |
|      | ハダニ類     | 平年：並<br>前年：並 | 平年：多<br>前年：多   | 発生は平年より多かった。                                   | 気温が高く推移したことにより増殖が助長された。       | 薬剤防除が実施された。                |
|      | アザミウマ類   | 平年：並<br>前年：並 | 平年：多<br>前年：多   | 一部のほ場で多発したが、全体的には平年並であった。                      | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。        | 親株ほ場および本ほ場で定期的な薬剤防除が実施された。 |
|      | アブラムシ類   | 平年：－<br>前年：－ | 平年：少<br>前年：やや少 | 発生は認められなかった。                                   | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。        | 数回の薬剤防除が実施された。             |
|      | カスミカメムシ類 | 平年：遅<br>前年：早 | 平年：少<br>前年：多   | 発生は平年より少なかった。                                  | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。        | 数回の薬剤防除が実施された。             |
|      | マメハモグリバエ | 平年：－<br>前年：－ | 平年：少<br>前年：少   | 発生は認められなかった。                                   | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。        | 薬剤防除が実施された。                |
|      | ハスモンヨトウ  | 平年：－<br>前年：－ | 平年：少<br>前年：並   | 巡回調査では発生は認められなかった。フェロモントラップにおける誘殺数は平年より高く推移した。 | 本種に対して効果の高い薬剤により防除された。        | 数回の薬剤防除が実施された。             |